

統計を担当して…

境町商工観光課 係長 石川 初枝

統計を担当して5年目になりますが、1番大変だったのはやはり国勢調査です。何もわからず単位区の設定、指導員・調査員の確保、又、本調査と無我夢中で過ごしました。指導員の協力により、調査員の不明な点は指導員に連絡等を取っていたので、私達職員が調査に出向くこともほとんどなく、調査困難な場合は指導員が来庁し相談をしながら解決にあたりました。町民の中には「何でこんな調査をするのか?」「職業のことまで書かなければならないのか?」等電話問い合わせが何件かありましたが、説明をする中で理解と協力をしていただきました。調査を通して多くの指導員・調査員の方々と知り合えたことも私にとっては貴重な体験でした。昨年「猿島郡統計事務研究会」で総務庁を視察しましたが、私達は国勢調査が終わり、次の調査に入り国勢調査の調査票も忘れかけていましたが、まだエラーの訂正等が行われており、結果が出るまでには時間がかかるものだと思います。調査票が保管されている場所も見せていただきましたが、すごい量の調査票で驚くばかりでした。

市町村によって多少違いがあると思いますが、当町の統計調査員協議会について少しふれたいと思います。会員（全員登録調査員）は93名で、役員は会長はじめ副会長2名、幹事7名で構成されています。「農業センサス」「農業基本調査」等は、行政区より推薦された調査員で行われ、その他の調査例えば、「商業統計」「工業統計」等は町よりお願いしている調査員11名の方を含めて選出し、抽出調査の場合は、その行政区より推薦された調

査員の方をお願いしています。年1回総会を兼ねた視察研修会を実施し、今年度も5月13日～14日に行われ40名の参加がありました。年度当初に実施されるため調査員と顔見知りになり、調査依頼がスムーズに運んでいます。

統計調査は商工観光課で担当していますが、調査のデータの利用は企画・又は農政関係等の方が多く、担当者が実際利用するのは統計書作成時の他は少ないようです。しかし、調査をするときは事業所等が関連しているため協力も得られやすく、担当部署としては今のままがやりやすいと思っています。（これから先はわかりませんが……）

今まで経験してきた住民課・税務課・福祉課等は自分で行ったものはすぐに結果が分かり跳ね返ってきましたが、統計はデータが揃うまでに時間がかかり実際出てきてもこれが正しいかどうか不安になるときもあります。これからは、調査結果がどういうふうに使われ、どういうふうに使われているか興味をもち、心に余裕を持って調査を進めていきたいと思っています。

ふ る さ と お も し ろ 統 計 学

一般廃棄物処分場

急がれるごみ減量化

みなさんの家庭では、一日にどれくらいのごみが出ていますか。本県内の赤ちゃんからお年寄りまで含めた一人当たり一日に出すごみの量は936グラムとなっています（平成6年度）。一家庭4人家族とすると、毎日約4キロ近いごみが各家庭から出されていることになり、県全体では年間100万7000トン（東京ドーム約三杯分）にもなります。

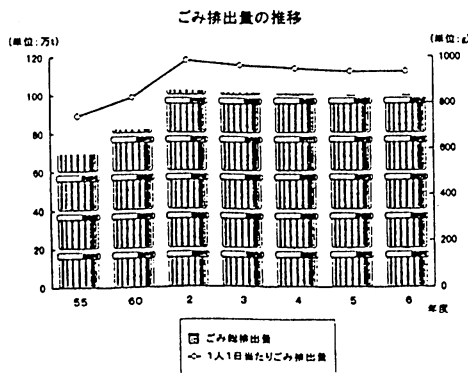
これらの家庭から出される大量のごみのほとんどは、収集車が収集して、焼却施設での中間処理などを経た後埋め立て処分されます。その最終処分場について見ると、ごみの増加に伴い、その残余容量が非常に少なくなってきました。全国平均の約10年に比べ本県では3.5年程度でいっぱいになってしまう、まさに黄信号が点滅中という深刻な事態を迎えています。また、新しい最終処分場の確保についても用地問題などで非常に難しくなっています。

このような最終処分場の逼迫した状況や地球規模での環境汚染や資源の有限化が問題となっている中で、いままでの大量消費、大量廃棄といったライフスタイルを見直し、ごみの減量化やリサイクルの促進が必要になってきます。

県としても、「ごみ減量化行動計画」を策定し、21世紀を目指した、県民・事業者・行政が一体となった、全県的なごみ減量化・リサイクル行動を推進しているところです。

折しも、今月は環境月間です。地球規模での環境を考える上でも足元から行動することが大切になってきます。みなさんも身近なごみを減らすことから環境問題を考えてみてはいかがでしょうか。（県統計課）

平成9年6月6日掲載



たばこと肺がん

最も身近な環境破壊

昔と比べて、身のまわりを見てもたばこを吸う人は本当に少なくなりました。近年は、オフィスでも列車でも喫煙コーナーや喫煙車両、喫煙時間などを設けて特定の場所・時間以外では、たばこを吸わせないのが常識になってきました。現在では、世界禁煙デー（毎年5月31日）が設けられているほどです。

20年くらい前まではどうも考えられないことでしたが、なぜこのようになったのでしょうか。理由はいろいろ考えられますが、国民の健康意識が高まったことやたばこを吸わない周囲の人にも害を及ぼすことなどが原因ではないでしょうか。

たばこで真っ先に連想するものといえば肺がんですが、たばこを〈一日に吸う本数×吸った年数（これをプリンクマン指数といいます）〉が400（※1）をこえると肺がんになる可能性が高くなるといわれています。

グラフに見られるように、男では肺がんによる死亡率が平成5年に胃がんを抜いてついにトップになりました。がんは昭和25年からほぼ一貫して増え続けておりますが、特に肺がんは顕著な増加傾向を示しています。

肺がんの早期発見には、レントゲン検査と喀痰（かくたん）検査（※2）が有効であるとされています。レントゲン検査は小学生のころから健康診断でおなじみですが、喀痰検査はあまりなじみがありません。

肺がんは肺野にできるものと肺門（肺の入り口）にできるものとの二種類がありますが、肺門の方のがんはレントゲン検査では発見しにくく、喀痰検査を受けることが必要になります。年に一回のレントゲン検査と喀痰検査を受けることが肺がんの早期発見には大切です。

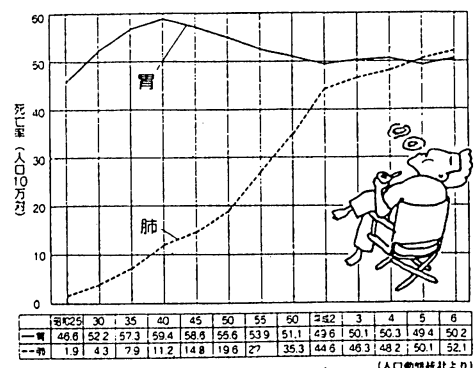
せきと血痰が肺がんの2大症状ですが、自覚症状がなくても特にたばこを吸う人は積極的に定期的な検査を受けることが肺がん予防の第一歩です。

※1 例えば1日平均20本吸う人が20歳から40歳まで吸い続けると400（=20本×20年）となる。

※2 喀痰（かくたん）検査…朝起きたときに出た痰を顕微鏡で見て、がん細胞が混じっていないかどうかを調べる検査。（県統計課）

平成9年6月20日掲載

胃がん、肺がんの死亡率の年次推移(男)〈全国〉



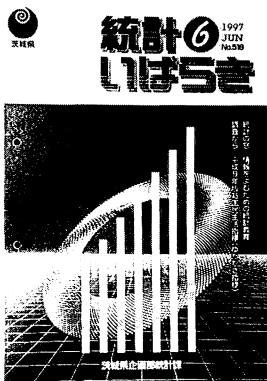
※「ふるさとおもしろ統計学」は隔週金曜日、茨城新聞に掲載されています。

賛助会員 募集のお知らせ

茨城県統計協会では、統計情報の活用を図るため、事業の一環として賛助会員制度を設け、会員の皆様に各種統計刊行物を作成の都度配布しています。法人・個人を問わず、どなたでも加入できますので、お気軽にお申し込み下さい。

〈年会費〉 - (A会員) …… **23,000円** (B会員) …… **10,000円**

配布予定刊行物



A会員

- 茨城県消費者物価指数……(毎月)
- 茨城県の人口と世帯……(毎月)
- 統計いばらき……(毎月)
- 茨城県勢要覧……(年刊)
- 茨城県のすがた(地図)……(年刊)
- 茨城県統計年鑑……(年刊)
- 鉱工業指数……(年刊)
- 県民経済計算……(年刊)
- 賃金・労働時間・雇用の働き ……(年刊)
- 茨城の工業……(年刊)
- 茨城県消費者物価指数……(年刊)
- 統計からみた茨城……(年刊)

B会員

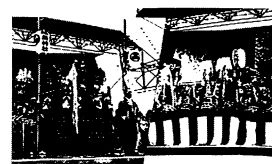
- 茨城県消費者物価指数…(毎月)
- 茨城県の人口と世帯……(毎月)
- 統計いばらき……(毎月)
- 茨城県勢要覧……(年刊)
- 茨城県のすがた(地図)…(年刊)

※申し込み等詳細については、茨城県統計協会(茨城県企画部統計課内)へ直接お問い合わせ下さい。

(電話)代表029-221-8111(内線)2651
(電話)直通029-221-5505
(FAX)直通029-228-0961



平成8年版
茨城県勢要覧



茨城県のすがた
'97

編集後記

慌ただしい朝、天気予報をチェックせずに家を出ると道行く人全てが傘を持っている。そんな時に限って職場にも置いてなかったり…。

傘のいない季節が待ちどおしい今日この頃。

(DS)

統計いばらき 1997.7 No.519

平成9年7月発行

編集兼発行/茨城県企画部統計課

茨城県統計協会

〒310 水戸市三の丸1丁目5番38号

電話 029-221-8111(内線)2651,2652

029-221-5505(直通)

FAX 029-228-0961

印刷所/富士オフセット印刷株式会社